

NO	分科会名	テーマ	分科会	分散会名	座長	助言者
A	施設でその人らしい暮らしを支えることを考える	<p>暮らしのことで中心に、ホームの中で生活の工夫や暮らしの個性にどのように取り組んでいるか、また、行事やイベントの取り組み、生活の彩りの工夫などの実践を持ち寄りましょう。</p> <p>入所から身体状況の変化、看取りにわたるその人の人生を支えることや、生きることの尊さや本人や家族の希望に寄り添う看取りの取り組み、家族の迷いも受け止めて対応していく取り組み、体制づくりや課題について考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス計画の実践。どのように評価し、実践に活かしていますか</li> <li>・重度化した高齢者に対してのその人らしい生活を支える取り組み</li> <li>・チームケア、家族と協働することによりケアの質が良くなった実践など</li> <li>・生活の延長にある終末期において看護職・介護職・他専門職と共に取り組んだ実践例</li> </ul>	A-1	新型・ユニット型を中心に	東京 マイホーム新川 施設長 繁田 正人	岡山 健生園 施設長 竹永 徹
			A-2 ①	従来型を中心に ①	千葉 やわら木苑 施設長 伊藤 裕之	新潟 しおかぜ荘 施設長 松井 裕
			A-2 ②	従来型を中心に ②	群馬 エンジェルホーム ケアサービス課チーフ 安藤 直史	北海道 かりぶ、あつべつ 施設長 石井 秀夫
			A-3	認知症の方のケア	群馬 エンジェルホーム 園長 若林 毅	愛知 蒲郡眺海園 施設長 早川 昌宏
A-4	重度化した高齢者への対応	東京 白十字ホーム 生活相談員 柿沼 由希美	島根 ひまわり園 施設長 常陸 実			
B	施設の食を考える	<p>ソフト食、クックチル、フリーズ食品など利用者の重度化に伴い、食のあり方、形態提供の仕方が多様になっていきます。各施設における食事（摂取）の創意工夫の実践を持ち寄り、課題について検討していきましょう。職場の課題の解決の糸口やヒントを持ち帰り、今後の業務に役立てていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームケア、多職種協働による豊かな食生活の取り組み、工夫</li> <li>・調理現場における個別対応</li> <li>・最後まで食べる楽しみ、味わいの豊かさなどを継続する取り組み</li> <li>・身体状況の低下による嚥下困難や精神疾患などによる食欲不振、認知症による摂取量低下など、低栄養の予防、改善の取り組みや工夫</li> <li>・ホーム内での食生活支援をホーム外で必要としている高齢者にも提供できるような、施設から地域への取り組みなど 新たな方向性を開く取り組み</li> </ul>	B	食を支える	東京 上井草園 管理栄養士 高澤 弘美	東京 愛全園 栄養課長 吉野 知子
C	施設の医療や健康管理を考える	<p>利用者の重度化、重症化に伴い、施設の医療体制では対応が難しい症例が増えています。本人や家族の希望に添ってホーム内で本人の苦痛の緩和や症状の改善に努めている事例や取り組みを持ち寄り検討しましょう。医療ニーズにどう応えるか、課題を整理し、介護職の専門性について考えます。(単に、医療的ケアをするかしないかではなく、何のためにどのようにするか、を踏まえた議論が必要ではないでしょうか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護と看護、他専門職の連携、協働</li> <li>・皮膚のケアの充実 褥瘡予防</li> <li>・感染症予防対策</li> <li>・生活の延長にある終末期ケアに看護職・介護職・他専門職と共に取り組み</li> </ul>	C	医療・健康管理を考える	東京 王子生協病院 医療相談員 小山 幸	東京 上井草園 園長 笹川 美由紀
D	在宅生活を支える施設の役割を考える	<p>在宅生活を支えるデイサービスやショートステイのあり方や役割、課題について議論し検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショートステイならではの課題、難しさ、工夫した取り組み</li> <li>・ショートステイの受け入れ、医療依存度の高い利用者の受け入れについて</li> <li>・認知症高齢者のショートステイ</li> <li>・緊急ショート、虐待保護、多問題家族の対応支援</li> <li>・ショート中の洗濯、荷物点検、服薬の管理について</li> <li>・初回アセスメントとリスクの把握</li> <li>・在宅での医療処置の継続が必要な利用者への対応</li> <li>・ホームの社会的な役割、デイサービスとの連携した取り組みや課題</li> <li>・デイサービスの役割、認知症高齢者、虐待保護、他問題家族の対応支援</li> </ul>	D-1	ショートステイのとりにくみを中心に	東京 みやま大樹の苑 生活相談員 小澤 淳	新潟 あしぬま荘 事務長 西島 朝子
D-2 ①	通所のとりにくみを中心に ①	東京 白十字八国苑 施設長 吉田 裕	京都 生活支援総合センター 姉小路 施設長 井藤 光浩			
D-2 ②	通所のとりにくみを中心に ②	東京 葛飾やすらぎの郷 生活援助課課長 長谷川 浩司	東京 桜町高齢者在宅サービスセンター センター長 三浦 和行			

NO	分科会名	テーマ	分科会	分科会名	座長	助言者
E	有料ホーム・ケアハウス・高専など多様な住まいの機能と役割	福祉施設の観点から厚生労働省が、また国土交通省が住宅施策の観点から多様な住まいがつけられてきています。ケア付き住宅、有料老人ホーム(住宅型)、高専、高専質、高専質などこれらが「老後の住まい」の保障になりうるのか、どうすれば安心の住まい「終の棲家」になり得るのか、実践例を持ち寄り現状と課題を把握していきましょう。 ・多様な住まいの機能と役割、運営の問題・課題 ・認知症ケア ・重度化への対応 ・医療ニーズへの対応	E	ケアハウス・有料老人ホームなど	茨城 居宅介護支援事業所 やき 所長 渡辺 かつ枝 小野 ともみ	宮城 宮城野の里 施設長 小野 ともみ
F	養護老人ホームの役割と課題	新制度移行後のいろいろな影響や課題、利用者の重度化の中での対応等について論議しましょう。 ・自治体への働きかけ、低所得者・社会適応困難高齢者の実態 ・養護老人ホームのあり方、事例交流 ・「外部利用型」の導入など制度転換への実態と対応 ・ショートステイの取り組み	F	養護老人ホーム	長野 ハートビル川路 事務局長 西田 克美	大阪 東老人ホーム 事務局長 横山 道夫
G	地域で暮らし続ける	高齢者が地域の中で暮らしていくには多くの課題を抱えています。独居・老老・認認介護への支援や地域に向けた啓発活動、認知症サポーター等の見守り活動、ネットワーク作り等の実践例を持ち寄り、また、介護保険制度がありながらも在宅介護が困難な状況や施設に入れられない現状、「介護難民」「介護地獄」と称される深刻な状況を高齢者・家族に代わって代弁し、論議していきましょう。 (訪問介護) ・重度な利用者、家族は大きな影響をうけています。在宅ケアの大きな柱として今、ホームヘルプサービスの重要性を打ち出し、問題を共有していきましょう。 ・各機関との連携、ネットワークづくり ・質の向上の取り組み、サービス提供者の役割 (グループホーム) ・地域密着型サービスとして、地域の中でのグループホームのあり方や重度者の対応等ケアの質が問われています。グループホームならではのケアや課題、問題を持ち寄り討議していきましょう。 ・グループホームでのケアのあり方、「看取り」「家庭復帰」への取り組み ・グループホームと地域との関わり (小規模多機能施設) ・地域で暮らし続けるために「通い」「訪問」「泊まり」のサービスとして期待されましたが、介護報酬上の問題や機能のひとつである「泊まり」の長期化等、メリットとともに多くの問題も浮かび上がってきています。取り組みや課題について多くの人に知ってもらい検討していきましょう。 (居宅介護支援・地域包括支援・在宅介護支援センター・特養相談部門) ①地域づくり、コミュニケーション ・インフラ・マルネットワーク ・地域包括ケアの実践と課題 ・24時間在宅ケアの取り組みと課題 ・地域医療機関との連携 ・見守りネットワーク、ボランティア活動との協働 ・制度の狭間の福祉ニーズへの対応 ②在宅介護で困難(重度化等)な事例の対応 ・一人暮らし、老老介護、認認介護の増加への対応、実例とその支援 ・特養待機者の問題、病院、老健等転々としている事例	G-1	ホームヘルプサービスを中心に	東京 千住介護福祉専門学校 校長 竹森 千賀子	東京 白梅短期大学 准教授 森山 千賀子
			G-2	グループホームケアと小規模多機能施設	長崎 小規模多機能ホームうち んがた戸町 管理者 井口 三恵子	京都 社会福祉法人七野会 常務 橋本 信夫
			G-3	①地域づくり、コミュニケーション 居宅介護支援 地域包括支援センター 在宅介護支援センター 特養相談部門	東京 白十字八国苑 生活相談員 酒井 瑞恵	東京 社会福祉法人多摩同胞 会 常務理事 鈴木 尚子
			G-4	②在宅介護で困難(重度化等)な事例の対応 居宅介護支援 地域包括支援センター 在宅介護支援センター 特養相談部門	東京 杉並区地域包括支援センターケア24上井草 所長 土屋 俊彦	東京 大正大学 教授 山田 知子

NO	分科会名	テーマ	分科会	分散会名	座長	助言者
H	安心・安全な生活を送る	<p>人権を守る(ケア)とはどんなことを意味するのでしょうか。日常の暮らしの中でリスクは避けられませんが、事故予防の取り組みや体制づくり、職員教育、人員配置、環境整備等マネージメント活動の実践を持ち寄り議論しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束防止の取り組みと課題</li> <li>・虐待防止の取り組み</li> <li>・オンブズマンや第三者機関活動の実例</li> <li>・個人情報管理</li> <li>・その人らしさ、自由、プライバシーを守るケアの実践例</li> <li>・事故防止の取り組みや体制、家族との連携・信頼づくり</li> <li>・ヒヤリ、ハットを生かす</li> <li>・発生した事故から学ぶこと</li> <li>・転倒防止の工夫</li> <li>・事故対策のマニュアルとその活かし方</li> </ul>	H	安心・安全な生活	<p>東京 みやま大樹の苑 介護主任 小川 正和</p>	<p>東京 社会福祉法人すこやか 福祉会 理事長 中山 美千代</p>
I	誇りと自信を持ち働きがい、やりがいのある職場づくりを考える	<p>高齢者自身が大切にされていると思える介護を実現するために、職員が互いに働ける職場をつくらなければなりません。そのような職場作りをどのように進めるか、取り組みの事例を持ち寄り、課題や問題解決のヒントを話し合い、今後の職場づくり役に役立てましょう。また中堅職員の職員育成の悩み、職場のストレス、管理者や同僚に言いたいこと、チームワークなどの課題について話し、今後の取り組みに活かしていきたいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人職員の主張、期待と現実、不安、悩み、どんな職員になりたいか</li> <li>・中堅職員の悩み、役割りと課題</li> <li>・自分の考え、意見を本音でぶつけ合い、職場の問題に真正面から取り組んだ事例</li> <li>・組織の活性化につながる行動や創意工夫の実践例</li> <li>・利用者の重度化のなかでの悩みや働き甲斐</li> <li>・上司に望むこと</li> <li>・研修制度、研修計画の策定と実践、人材育成の創意工夫、育成の悩みなど</li> <li>・職員のメンタルケア</li> </ul>	I	職場づくり	<p>東京 上井草園 介護主任 吉田 和美</p>	<p>大阪 いのこの里 施設長 山本 智光</p>
J	家族介護者を支える	<p>介護保険が介護の社会化をうたっていたにもかかわらず、依然として介護保険による保障は家族介護を前提としたサービスになっています。在宅介護者の4人に1人はうつ傾向が呈られる、心身疲労の相談が多いと報告があります。共に利用者を支えていくために、利用者ご本人の支援のみならず、家族を対象とした援助技術や支援体制、家族同士の支援、ネットワークの構築などの取り組みと課題を持ち寄り、議論していきたいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族会の現状と課題</li> <li>・家族とのケアパートナーシップ</li> <li>・家族への支援と課題</li> <li>・介護者の会のネットワーク</li> </ul>	J	家族介護者を支える	<p>千葉 やわら木苑 事務長 小倉 由美子</p>	<p>石川 やすらぎホーム 相談員 山口 修治</p>
K	情報共有を考える	<p>職場内の情報共有ができておらず事故やトラブルが発生したり、利用者に対しての入浴方法が職員によって違っていたり、家族の思い、希望が全職員に伝わっていない、家族の不信感を招いたりすることが多くあると思えます。情報からの気づき、情報の背景を読み取り、活かしていく試み、情報共有の取り組み・工夫・課題を持ち寄り、学び合います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を活かす</li> <li>・職員間(職場内)での情報共有(アセスメントシート、介護記録など)</li> <li>・事業所と家族との情報共有</li> <li>・事業所間の情報共有(居宅、自治体、包括など)</li> </ul>	K	情報共有を考える	<p>東京 日本医療福祉生活協同組合連合会 事務局 江本 淳</p>	<p>兵庫 にしのみや苑 施設長 細岡 雄二</p>

※演題数、参加希望者数との関係で分科会の増減が生じる場合がございます。また、座長・助言者も変更になる場合がありますのでご了承ください。  
※※会場の定員に運し次第、「第2希望」の分科会にご参加いただくこととなりますのでお申し込みはお早めにお願いたします。(申込用紙参照)



# 分科会で発表する演題を募集しています

昨年の第9回職員研究交流集会は福岡で開催され、約370名もの参加者が大いに学び、交流を深めました。2日目に行われた分科会では、各現場のテーマにあわせて20の分散会が開かれ、全国から111本もの実践報告が寄せられました。

日々、一生懸命、高齢者に寄り添いながら、ゆたかな援助実践を積み重ねている全国の皆さん、

**是非、日頃の地道な実践を東京に持ち寄り、共に学び、共に育ちませんか？**

**分科会一覧表(P5～7)をご参照のうえ、発表をご検討ください。皆さんからのエントリー、お待ちしております。**

発表していただける方は、「演台募集エントリー(P10)」用紙に必要な事項をご記入のうえ、9月10日(金)までに特別養護老人ホームやわら木苑まで FAX にてお送りください。

なお、当日、参加者にお配りする資料集に掲載の原稿は、下記の「研究・実践報告の提出について」をご参照のうえ、9月30日(木)までにご提出ください。同じく、発表時に「パワーポイントを使用する場合」につきましては、「パワーポイントを用いての発表についてのお願い(P9)」をご参照のうえ、10月20日(水)までに郵送で下記までご提出ください。

## ～研究・実践報告の提出について～

21・老福連第10回職員研究交流集会の成功のため、研究・実践報告をもってご参加いただきたく、発表原稿をお待ちしております。つきましては、当日配布の使用集に掲載する原稿を下記のとおりご提出いただきますようお願い申し上げます。提出いただきました原稿は、そのまま資料集に掲載させていただきます。

### 1. 発表原稿の様式： 下記のとおり \* 文書はワードにて作成のこと

タイトル○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(フォントサイズ12)

—サブタイトル○○○○○○○○○○○○○○○○—(フォントサイズ9)

都道府県名 所属の施設種別名 施設名

職名 氏名

(都道府県名以下フォントサイズ10.5)

(章立てをする場合は次の数字を当てる) 1 →章 1)→節 ① →項

○用紙サイズはA4/余白:上下・左右とも20ミリ/横書き/1行45字・1枚45行/(概ね2～4枚程度)

○<本文の文字>⇒MS明朝、フォントサイズは10.5 <タイトル>⇒は上記例示のように□□□□で囲み、

文字はMSゴシック(フォントサイズは、タイトルは12、サブタイトルを付す場合はフォントサイズ9、その他は10.5)

○Wordファイル名:【[分科会No][県名][施設名][氏名]】 (例) 1-2 東京\_安心すがも\_江戸次郎

○章立てをする場合には、章に1, 2, 3の数字、節に1), 2), 3)のように片 )の数字、項に①②③の囲いのある数字を用い、本文との違いを明確にするため、文字はMSゴシックとする。

○Wordソフトの「2007」で作成した文書は、必ず「2003形式で保存」をしてから添付をすること。

○発表方法は資料集に掲載されたレジュメ等に基づくものとする。なお、パワーポイント等の使用については、演題エントリーの時点で申し出があったものしか認められません。

○発表原稿のワード文書に写真等を添付して送信される場合、ある程度容量が大きい分については別途記憶媒体に保存の上、郵送にて送付していただくようお願い致します。

○研究交流集會に参加できない方々とも実践交流を図る主旨で、研究・実践報告(発表)された内容を情報交流誌「ほとぼら」の特集記事として取り上げることもございます。ご承知おきください。

### 2. 発表時間： 1演題 10～20分程度

各分科会の演題数によって異なるためあくまで目安です

### 3. 提出期限： 9月 30日 (木) 必着

### 4. 提出先： Eメールにて Wordファイルを添付

◆ 特別養護老人ホームやわら木苑(担当:伊藤・小倉)

E-mail 【t-yawaragi@aria.ocn.ne.jp】

※発表原稿は、事業所の個人情報保護規定に従い、適正な手続きで対応している旨の倫理的配慮について明示をお願いします。

# ～Power Pointを用いての発表についてのお願い～

## 1. 使用機材について

発表に使用する機材はパソコン・プロジェクターとします。パソコン・プロジェクターおよび接続用ケーブルは主催者側で準備致します。(なお、「発表演題募集」応募の際、ノートパソコン持参可とお答えいただいた方には、事務局から個々にお問い合わせする場合がありますのでご了解ください)

## 2. データの事前提出について

あらかじめ、発表データを下記住所に送付いただくこととします。提出はCD-Rにてお願い致します。(メール添付はご遠慮ください)なお、提出の際にはパワーポイントのバージョンを必ずご明記下さい。また、動画の使用は不可です。

また作成の際には、MS明朝、MSゴシック等 Windows 添付の標準フォントで、写真等を用いる場合は、アクセサリのペイント等で表示される実寸サイズにあらかじめ小さくしたものをご使用いただきますようお願いいたします。

## 3. 発表について

発表時は、各分科会で使用するパソコンのデスクトップにパワーポイントのファイルをコピーしておきますが、操作は各自で責任を持っておこなって下さい。予め動作確認などは主催者側で実施し、トラブルのないように努めますが、基本的には各自で対応して頂く事となります。ご不明な点がございましたら、下記にご連絡をお願い致します。

## 4. 提出期限 : 10月 20日 (水) 必着

## 5. 提出先 : 特別養護老人ホームやわら木苑 (担当:伊藤・小倉)

〒270-2251 千葉県松戸市金ヶ作 277 電話 047-386-0213

# ～各期日を守ってご提出ください～

## 運営にご協力お願いします

### 「演題募集のエントリー」〆切は9月10日(金)です

エントリー用紙に必要事項をご記入いただき、やわら木苑(担当:伊藤・小倉)までFAXで送信願います。【 番号 047-389-7201 】

### 「発表原稿」の提出〆切は9月30日(木)です

Eメールにて Wordファイルを添付を添付の上、やわら木苑(担当:伊藤・小倉)までお送りください。E-mail アドレスは【 t-yawaragi@aria.ocn.ne.jp 】

### 「PowerPoint データ」の提出〆切は10月20日(水)です

データを CD にコピーの上、やわら木苑(担当:伊藤・小倉)までお送りください。  
送付先 【 〒270-2251 千葉県松戸市金ヶ作 277 】 まで!



# ～演題募集のエントリー～

「演題募集のエントリー」〆切は9月10日(金)です

施設名		施設住所	〒
施設種別		TEL	
		FAX	
発表者名		職種	
◆必ずご記入ください 第( ) 希望分科会 (分散会番号も忘れず)	演題		
発表内容 (簡潔に)			
◆必ずご記入ください 発表の際にパワーポイントの使用を予定していますか ※動画は不可	している・していない (いずれかに○を)		
ノートPC持参 (パワーポイントソフトが入ってなくても可) ※現地で用意できない時はお願いすることもあります	できる・できない		
◇上記「PC持参」の設問で「できる」とお答えいただいた方 Windowsのバージョン パワーポイントのバージョン	※該当箇所をチェック願います <input type="checkbox"/> Me <input type="checkbox"/> XP <input type="checkbox"/> VISTA <input type="checkbox"/> windows7 <input type="checkbox"/> 2000 <input type="checkbox"/> 2002 <input type="checkbox"/> 2003 <input type="checkbox"/> 2007		

## ◇送付先

特別養護老人ホームやわら木苑 (担当:伊藤・小倉) FAX番号 047-389-7201

## ◇問い合わせ

特別養護老人ホームやわら木苑 (担当:伊藤・小倉) 電話 047-386-0213  
21・老福連 第10回職員研究交流集会実行委員会 電話 042-392-1375